

NISAでも注目される積立投資は有効か？  
多様な地域・資産・期間で検証。

商品企画部 松尾 健治  
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

4月から投資デビュー、注目の積立を考える！

4月となり、新しく投資を始める人を中心に積立が注目されている。積立は、まとまった資金の無い人にとっての資産形成に有効な方法であると同時に、投資初心者が投資タイミングを考える必要が無い事もメリットと言われる。ただ問題は一括投資した時と違い、リターン/リスクがわかりにくい事である。出来れば代表的な商品ごとにリターン/リスクが理解出来ると良い。そこで、積立の有効性を、5年、10年、15年、そして、積立NISAの非課税期間である20年で、多様に、かつ、長期的に検証する。

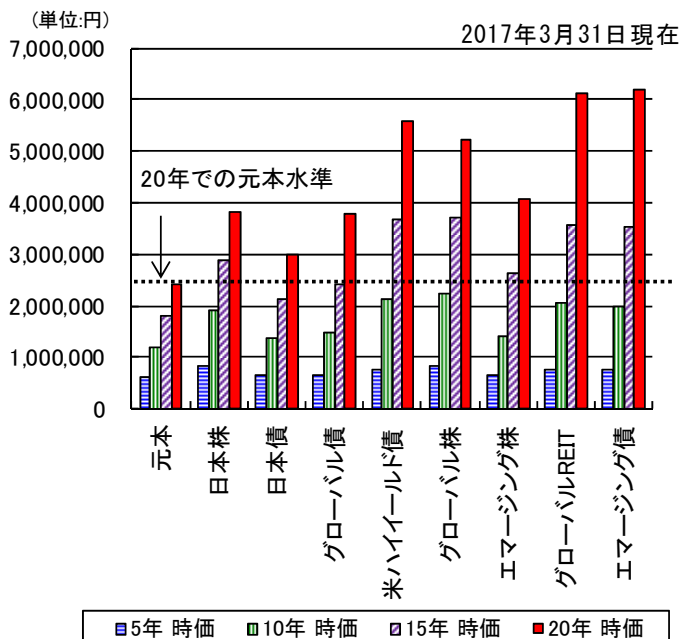


2017年3月末時点で積立はいずれも利益をもたらしている

まず、先月末2017年3月31日時点で、これまで5年・10年・15年・20年、1万円を毎月投資し続けた積立の検証結果である。投資信託で使われること多いベンチマークについて見たものであり、下記グラフの左が時価、右が損益となっている(\*手数料等は無視)。

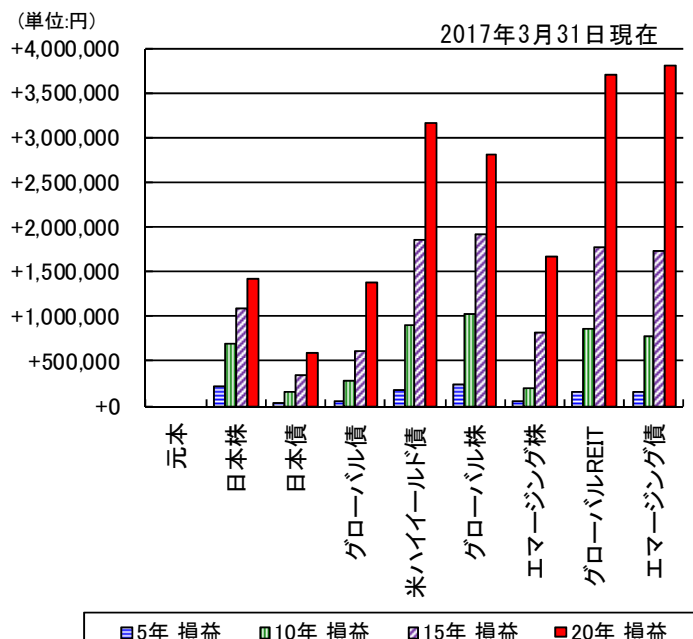
投資期間 5年・10年・15年・20年

2017年3月31日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の時価 \*左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



(出所: フルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)  
\*ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している(以下同じ)。

2017年3月31日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の損益 \*左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



(出所: フルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

尚、前回の調査結果(2016年12月末時点)については2017年1月23日付日本版ISAの道 その170を参照の事(URLは後述[参考ホームページ]①)。投資期間5年・10年・15年・20年いずれも利益が出ている。

**5年ではグローバル株(僅差で日本株)のリターンが最も良かった。10年・15年でもグローバル株(次いで米ハイイールド債)のリターンが最も良かった。実際NISAで投信積立を行っている投資家にグローバル株ファンドが人気であった事から(2017年4月10日付日本版ISAの道 その177~URLは後述[参考ホームページ]②)、現状ではグローバル株投資は有効な投資だったと言える。** また、グラフで目立つのが投資期間20年であり、元本240万円に対し、特にエマージング債とグローバルREIT、次いで、米ハイイールド債が良かった様だ。

## 2017年3月末時点以外、積立の終了時期を変えて検証する

ここで積立の終了時期を変えて検証する。積立投資は「出口」、つまり、いつ終わるかがとても重要となる。積立は一括投資の様な「投資時期と終了時期の2時点での市場次第」と言うリスクは軽減されるものの、「終了時期の市場次第」と言うリスクがある(\*積立期間中に市場価額が上下して平均投資単価が時価を上回るリスクもある)。**「特に成績が悪かったのは、積み立ての終了時期がリーマン・ショック直後になった区間。積み立ては後半になるほど投資額が膨らむため、投資をやめる時期の相場環境に結果が大きく左右される。」**(2016年1月4日付日本経済新聞電子版~URLは後述[参考ホームページ]③)と言う事である。

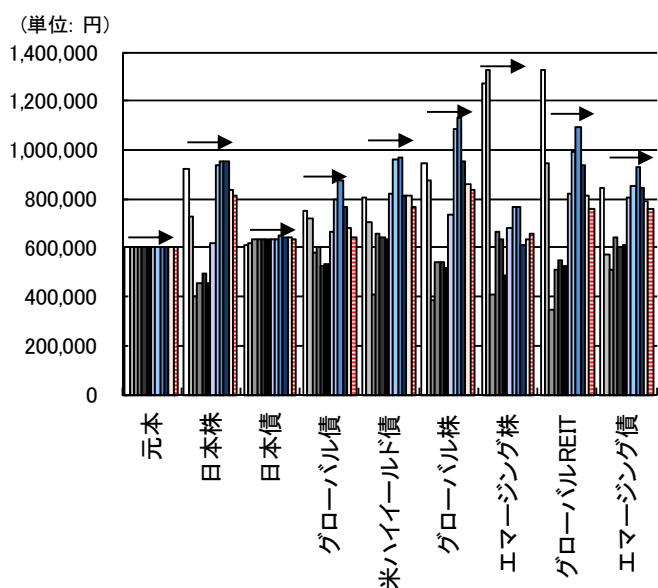
例えば、先月2017年3月末や昨年2016年12月末時点で売却した場合は、5年・10年・15年・20年いずれも利益は出ていたが、2016年9月末で売却した場合、エマージング株では投資期間5年で損失だった。ただし、そのエマージング株は2017年3月末に売却すると、いずれの投資期間でも2016年末より大きな利益となった。反対に債券やグローバルREITでは2017年3月末に売却した場合の利益は2016年末より小さくなった。

そこで終了時期の検証をする。「2017年3月末まで」だけでなく、「2006年~2016年の各年末まで」も検証する。

### 投資期間5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の **時価**

\*左から2006年~2016年の各年末、2017年は3月末。

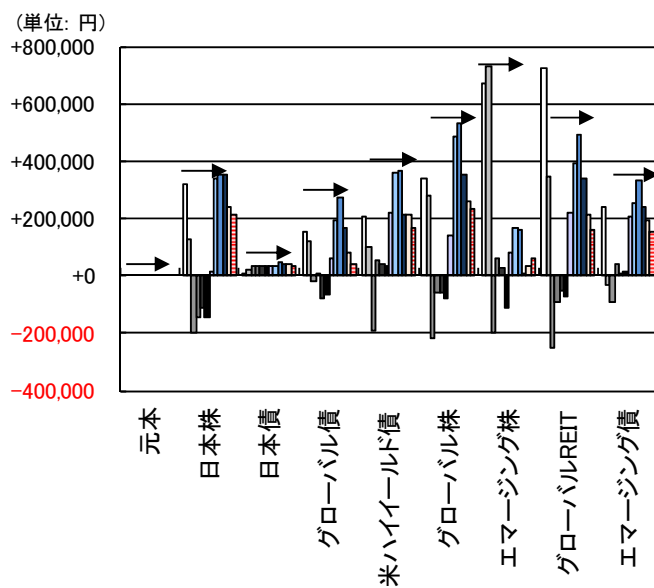


□ 2006/12/29	□ 2007/12/31	□ 2008/12/31	□ 2009/12/31
■ 2010/12/31	■ 2011/12/30	□ 2012/12/31	□ 2013/12/31
■ 2014/12/31	■ 2015/12/31	□ 2016/12/30	■ 2017/3/31

(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の **損益**

\*左から2006年~2016年の各年末、2017年は3月末。



□ 2006/12/29	□ 2007/12/31	□ 2008/12/31	□ 2009/12/31
■ 2010/12/31	■ 2011/12/30	□ 2012/12/31	□ 2013/12/31
■ 2014/12/31	■ 2015/12/31	□ 2016/12/30	■ 2017/3/31

(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

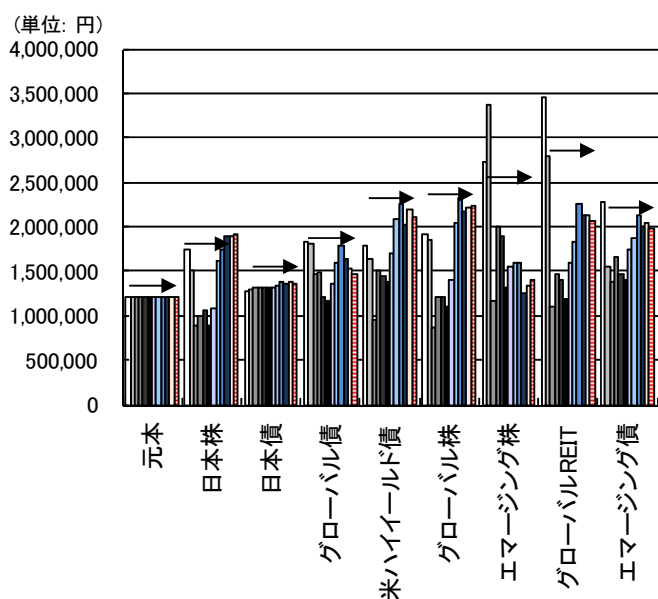
前頁の5年のグラフを見ると、グローバルREIT・グローバル株・日本株はリーマン・ショック(2008年9月)後2008年末から2011年末まで損失が続いている。ただ2012年末に回復、2014年末にかけ利益が拡大した。エマージング債は2007年末と2008年末で損失、米ハイイールド債は2008年末に損失となっている。

下記グラフは10年である。上記5年に比べ総じて黒字化している事がわかる。グローバルREITとグローバル株は、投資期間5年では2008年末から2011年末まで損失だったが、10年では、2008年末と2011年末だけで損失である。エマージング債は5年では損失の時もあったが、10年ではどの時点でも利益となっている。グローバル債は5年で2008年末・2010年末・2011年末で損失だったが、10年では2011年末のみ損失となっている。総じて損失となる年が減り損失額も小さくなっている。ただ、日本株は2008年末から2012年末まで損失であり、前頁の投資期間5年より損失年が増えている。

投資期間10年

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 時価

\*左から2006年～2016年の各年末、2017年は3月末。

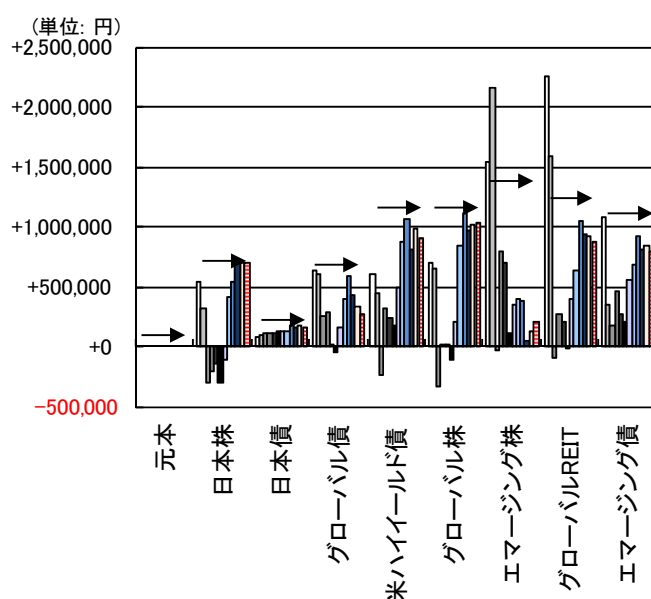


□2006/12/29	□2007/12/31	■2008/12/31	■2009/12/31
■2010/12/31	■2011/12/30	□2012/12/31	□2013/12/31
■2014/12/31	■2015/12/31	□2016/12/30	■2017/3/31

(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 損益

\*左から2006年～2016年の各年末、2017年は3月末。



□2006/12/29	□2007/12/31	■2008/12/31	■2009/12/31
■2010/12/31	■2011/12/30	□2012/12/31	□2013/12/31
■2014/12/31	■2015/12/31	□2016/12/30	■2017/3/31

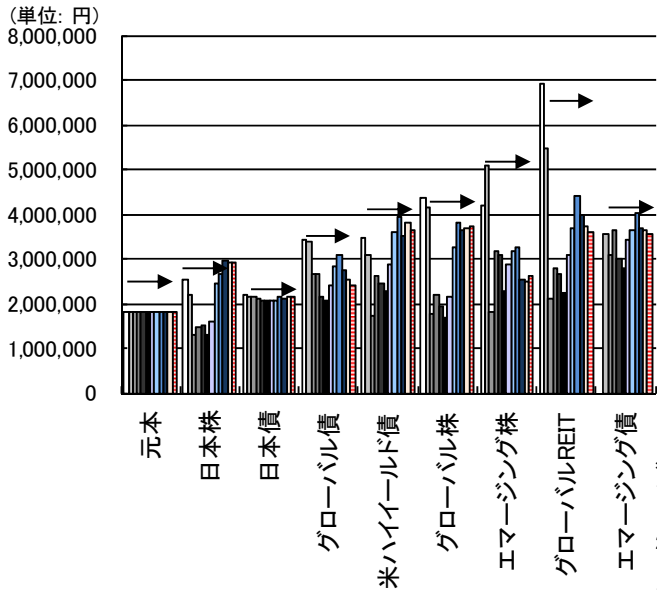
(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

そして投資期間15年・20年である。10年と比べ、より黒字化が鮮明となる。いずれの時点でも利益、もしくは、見えないくらいの損失にとどまる。この様にリーマン・ショック(2008年9月)の様な相場暴落の中でも、より長期の積立投資では良好な結果になっている。

**投資期間 15年**

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の **時価**

\*左から2006年～2016年の各年末、2017年は3月末。

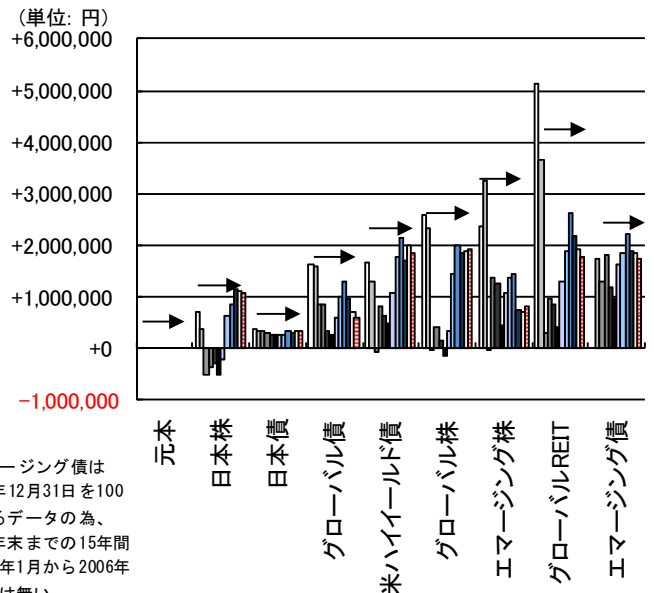


□ 2006/12/29	□ 2007/12/31	□ 2008/12/31	■ 2009/12/31
■ 2010/12/31	■ 2011/12/30	□ 2012/12/31	□ 2013/12/31
■ 2014/12/31	■ 2015/12/31	□ 2016/12/30	■ 2017/3/31

(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の **損益**

\*左から2006年～2016年の各年末、2017年は3月末。



□ 2006/12/29	□ 2007/12/31	□ 2008/12/31	■ 2009/12/31
■ 2010/12/31	■ 2011/12/30	□ 2012/12/31	□ 2013/12/31
■ 2014/12/31	■ 2015/12/31	□ 2016/12/30	■ 2017/3/31

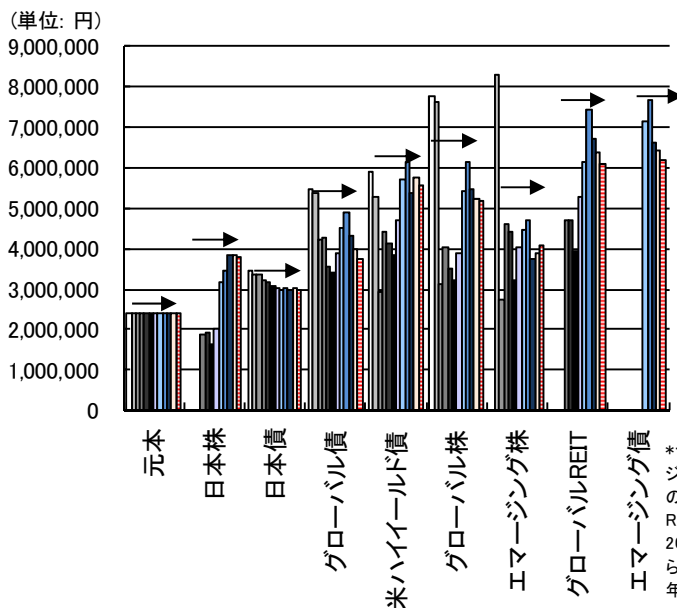
(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

\*エマージング債は1993年12月31日を100とするデータの為、2006年末までの15年間(1992年1月から2006年12月)は無い。

**投資期間 20年**

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の **時価**

\*左から2006年～2016年の各年末、2017年は3月末。

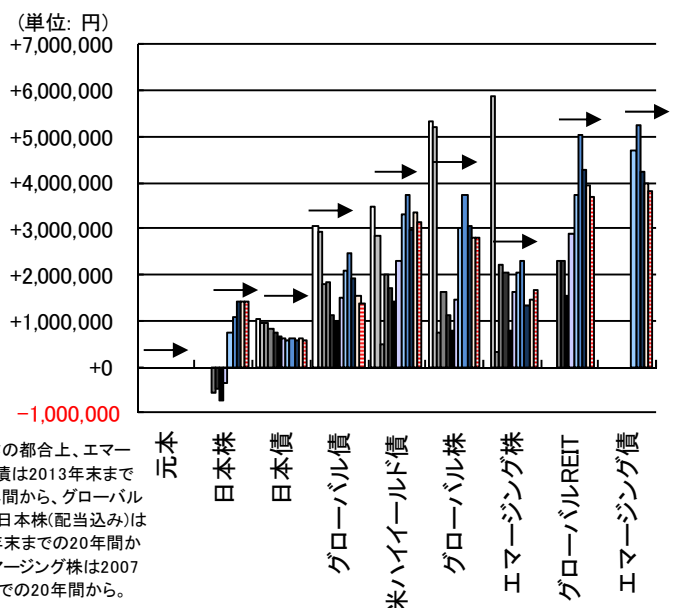


□ 2006/12/29	□ 2007/12/31	□ 2008/12/31	■ 2009/12/31
■ 2010/12/31	■ 2011/12/30	□ 2012/12/31	□ 2013/12/31
■ 2014/12/31	■ 2015/12/31	□ 2016/12/30	■ 2017/3/31

(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の **損益**

\*左から2006年～2016年の各年末、2017年は3月末。



□ 2006/12/29	□ 2007/12/31	□ 2008/12/31	■ 2009/12/31
■ 2010/12/31	■ 2011/12/30	□ 2012/12/31	□ 2013/12/31
■ 2014/12/31	■ 2015/12/31	□ 2016/12/30	■ 2017/3/31

(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

\*データの都合上、エマージング債は2013年末までの20年間から、グローバルREITと日本株(配当込み)は2009年末までの20年間から、エマージング株は2007年末までの20年間から。

ベンチマークによっては5年・10年の積立で損失を被る場合もあったが、15年・20年の積立では大半のベンチマークで利益となった。

尚、積立投資と共に金融庁がその効果を強調している(資産の)分散投資、バランス型ファンドは、以上の検証の組み合わせに近い、もしくは、ベンチマーク間の「負の相関」があれば、よりリスクを低めてくれ損失をもっと少なく出来る可能性もあろう。

以上、ここに掲載したリターンやリスクを参考に積立を検討、ジュニアNISA、成人NISA、職場積立NISA、そしてiDeCo(イデコ)/個人型確定拠出年金と言った節税出来る金融商品を使い、投資をして資産形成の一助にしてほしいものである。2018年1月に始まる積立NISAでは、長期・分散投資に適した商品および積立投資に限定される方針である。今回は、この積立NISAについて取り上げる。

以上

[参考ホームページ]

①2017年1月23日付日本版ISAの道 その170「2017年は「資産形成元年」!? 分散効果で長期的に見れば100%に近い人が成功体験を手に出ると言う積立を、多様に、かつ、長期的に検証」…

「[http://www.am.mufg.jp/text/oshirase\\_170123.pdf](http://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170123.pdf)」

②2017年4月10日付日本版ISAの道 その177「NISA、ジュニアNISA、企業型DC、iDeCoの投資優遇税制4制度で認知度の最も高いNISAの投信において人気があったグローバル株や日本株。」…

「[http://www.am.mufg.jp/text/oshirase\\_17410.pdf](http://www.am.mufg.jp/text/oshirase_17410.pdf)」

③2016年1月4日付日本経済新聞電子版「積み立て投資は10年続けよ『勝率』は9割“完璧”安心老後のポートフォリオ」…「[http://www.nikkei.com/money/column/nkmoney\\_tokushu.aspx?g=DGXMZO942345502011201500000](http://www.nikkei.com/money/column/nkmoney_tokushu.aspx?g=DGXMZO942345502011201500000)」。

## 本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご留意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。